

1. 参考文献

- ・「金融システムの再生にむけて」(Lecture 5) 日本銀行銀行論研究会編、有斐閣、2001年
- ・「金融の未来学」、翁百合、ちくま新書、2002年

2. 金融機関の業態 … 専門銀行主義などの役割分担・リスクの分離

銀証分離（銀行業と証券業の分離）：証券取引法 第65条で分離 米国の影響

長短分離（長期信用銀行と普通銀行の分離）：金融債を発行、長期プライムレートを決定

銀信分離（信託銀行と普通銀行の分離）：信託業務を兼営する銀行を限定、貸付信託が大

中小企業金融を担う金融機関：相互銀行（現在は無い）、信用金庫、信用組合、労働金庫など

政府関係金融機関、農林漁業金融機関、保証協会、保険会社（生保と損保の分離）など

- ・高度成長期にはこれらの役割分担が十分機能したとの見方

石油危機後、**二つのコクサイ化**（国債化と国際化）により業態を越えた競争が広がる

3. 金融システム改革（通称「金融ビッグバン」）：フリー・フェア・グローバルの3原則

- ・ビッグバン：宇宙の始まりとなったとされる大爆発 1986年の英国の証券市場改革の別称に

- ・1996年11月に橋本総理(当時)が提唱：「目標～2001年にはNY、ロンドン並みの国際市場に」

- ・**タイムスケジュールの明確化** + 3原則 + 利用者の視点

3原則 { Free (市場原理が働く自由な市場に) ... 各種規制の緩和 (護送船団行政からの決別)
 Fair (透明で信頼できる市場に) ... 行政や制度などの透明性の向上
 Global (国際的で時代を先取りする市場に) ... 日本型金融システムの大幅見直し

4. 業態間の垣根の低下

- ・**相互乗り入れ** ... 証券子会社・信託子会社（業態別子会社）の制限緩和 + 投信などの窓口販売
業態間の競争の激化

- ・銀行での**投資信託販売** ... 当初：店舗貸 銀行本体で販売（今や投信の純資産残高の約4割が銀行）

- ・業態を超えた合従連衡 ... 金融持株会社の解禁（それまでは純粋持株会社を禁止）、生き残り戦略

5. メガバンクの登場

- ・**金融持株会社制度**の導入等が契機 持株会社の傘下に多くの業態が参加

- ・持株会社を活用した**統合の進展**（旧財閥Gを超えた統合も：三井住友銀行の事例）

都銀は5G（みずほ、三井住友、三菱東京、UFJ、りそな）に集約 近く4Gに再編

- ・統合メリットを活かすための**戦略**（強みを活かす経営、要員・店舗の合理化、システム投資の負担軽減等）

- ・**地域金融機関**にも統合の動き

6. 新しいタイプの銀行の登場

- ・**金融機能の分解**の動き（フルタイムで保有することが割高化、選択と集中）

- ・コンビニ・バンキングの拡大 …… 人の集まるところへのATMの展開：相互乗り入れも重視

利用時間の拡大（24時間利用できる銀行も）+ **拠点数の多さ** + 利便性の高さ（買物のついで）

店舗外ATMよりも各種コストが低く、シナジー効果が期待できる

- ・流通業や製造業など**異業種からの新規参入**（不良債権の重石のない銀行、新しいニーズへの対応）

- ・**日本版マスタートラスト**の登場（資産管理業務の再信託を受ける信託、情報のとりまとめ機能）

- ・**新しいビジネスモデル**の提示（インターネット専業銀行、決済専業銀行、決済請負、消費者金融との提携）

以上